

見通し

## カブトムシが黒くなってる 岡崎市根石保育園（愛知県岡崎市）

[2歳児]

<事前の様子> 地域の方にいただいたカブトムシの幼虫2匹を、枯葉を入れたペットボトルの飼育ケースに入れ、保育室に置く。

	子どもの様子	援助(♡) 読み取り(※)
興味・観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知ってる！」と保育者に答える。</li> <li>・「黒くて角があるの！」</li> <li>・「お兄ちゃん捕まえたことあるよ」見たことのある子は興味を示し、知らせてくる。</li> <li>・ペットボトルをあちこちから覗く。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡「カブトムシ知ってるかな？これはカブトムシの幼虫だよ。大きくなるとカブトムシになるんだよ」と知らせる。(かわるきっかけを作る)</li> <li>※子どもたちは「この白いものがカブトムシになる」と、わからない様子。</li> <li>♡カブトムシの図鑑を側に置く</li> </ul>
触れる・試す	<ul style="list-style-type: none"> <li>(新聞紙の上に枯葉を広げ、幼虫を出して見る)</li> <li>・あまりの大きさに「怖～い！」と保育者の側に駆け寄る。</li> <li>・A児は恐る恐る指先で触れる。</li> <li>・他の子どもも次々触り出す。</li> <li>・「はい、どうぞ」と口元に枯れ葉あげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡保育者が手のひらに幼虫を乗せ、触ってみせる。</li> <li>♡「優しく、よしよしできたね」と言う。</li> <li>♡「たくさん葉を食べて大きくなるといいね」と言う。</li> </ul>
気付く・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫に慣れ、平気で手のひらに乗せる子もいる。</li> <li>・「軟らかいよ」「頭が動いた」「お尻動いた」などと言う。</li> <li>・葉の下にもぐっていくのを見て、「かくれんぼしちゃった」「違うよ。今から寝るんだよ」とやりとりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡「どんな感じがするかな？」と声をかける。</li> <li>♡幼虫を枯葉の所に戻す。</li> <li>※子どもたちは触れたり見たりして感じたことを、言葉で表現することができる。</li> </ul>
観察・気付く・疑問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウンチが出たー！」「ウンチだ。ウンチだ！」と子どもたちはウンチに気付いて興奮し、興味が湧く。</li> <li>・「黒のウンチ！」と答える。</li> <li>・丸まって茶色になっていく幼虫を不思議そうに見ている。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡「何色のウンチかな？」と聞く。</li> <li>♡「みんなと同じだね」と言う。</li> <li>※子どもたちは幼虫が自分と同じように糞をすることがわかり、より身近に感じて興味が湧いた。</li> <li>♡幼虫がサナギになるため、しばらくは外から見るようにする。</li> </ul>
満足・感動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カブトムシが黒くなってる！」</li> <li>・「見たい見たい！」と押し合いになる。</li> <li>・大きいケースの中のカブトムシを嬉しそうに見る。</li> <li>・「ゼリーだよ。僕、知ってるもん」</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡カブトムシが出てきたことを知らせ、見やすいように大きなケースに入れる。</li> <li>♡「カカブトムシは何食べるかな？」</li> <li>♡「そうか、ゼリーを食べるの。リンゴやキュウリも食べるよ」と言い、図鑑を広げて子どもたちが見られるようにする。</li> </ul>

### 考察

保育者もカブトムシの成長を見るのは初めてで、子どもたちと一緒にワクワクしながら観察をした。2歳児なりに自分の経験と合わせて考えたりイメージしたりしている。カブトムシの図鑑を側に置いたことで、本を広げたり見比べたりする姿もあり、知りたい、確かめたいという好奇心がある。保育者の働きかけ（環境設定や言葉かけ）で興味関心が高まったり、イメージが膨らんだりした。何よりも生き物が成長していく不思議さを感じることができたと思う。不思議さを感じた時の子どもたちの目はキラキラ輝いており、今後も子どもと保育者が共に共感、共有して、感じる心を大切にしていきたい。

### ポイント

2歳児になると言葉での表現や理解ができるようになってきて、感じたり気付いたりしたことを表しながらかわりを楽しんでいる様子が見られます。保育者の援助の下で2歳児同士がかわり合うことにより、感じたり気付いたりしたことを伝える言葉が豊かに引き出され、興味が持続しています。変化に気づき、不思議さを感じて観察する姿勢からも「科学する心」の育ちが見えてきます。